

残そう優しい水辺・守ろう清らかな水環境



田園の中を流れる杜川

本町の北部を東に下り、石川町で阿武隈川に合流する杜川。

その源は、白河の関や白河神社に近い栃木・福島県境の白河市追分に端を発しています。

杜川の流れは、沿岸に肥沃な平地をつくり、古くから本町の穀倉地帯を拓き、農業の営みに大きな恵みを与えてくれています。また、杜川の水は江戸時代、藩主によって水系の異なる城下に引き込まれ、いまでも棚倉の市街地の生活用水・防火用水に利用され、久慈川へ流れ込んでいます。

潤い豊かな水環境をつくり、人々に多くの恩恵をもたらす清流をこれからも保全してまいります。

「清流」を村民が一体となって後世に伝えます。



酒垂川 塩倉地内

鮫川村は阿武隈山系最南部の高地に位置し、鮫川、阿武隈川、久慈川、四時川水系の源流部にあります。阿武隈川には本村の西部から杜川を経由して流入しています。地球温暖化など人間の営みが地球環境に大きな負荷を与えていますが、きれいな水、澄んだ空気を後世に遺すことは私たちの責務であり、阿武隈川の清らかな流れを守るため流域住民の様々な活動が求められています。本村では、川の汚れの最大の原因である生活雑排水を浄化するため農業集落排水事業や合併浄化槽設置の補助事業を推進し、また、村民が一体となって河川や道路の愛護作業を実施するなど水質改善に努めてまいります。

浅川町

阿武隈川サミットオブザーバー

みんなが水と遊び親しめる、きれいな河川づくりを目指します。

●取り組みの現状

現在、生活排水やゴミの流入等により河川環境が悪化し、昔のように子供たちが川に入り遊ぶ姿が見られなくなっていました。

このような現状を踏まえ、町民の川と水に対する美化意識の高揚を進めながら、公共下水道事業、農業集落排水事業及び浄化槽設置事業などに取り組み生活雑排水を浄化して川へ流すとともに、護岸の雑草駆除や河川のゴミの除去等を行うなど、町全域での水環境の改善を推進しています。

●未来へのメッセージ

子や孫の世代に美しい河川と豊かな川の恵みを引き継ぐことは今日を生きる私たちの責務です。

将来、子供たちが昔のように川に入り遊べるような環境を作るため、町民一人ひとりが意識し、きれいな河川づくりのための取り組みを強化していきます。



社川滝輪地内

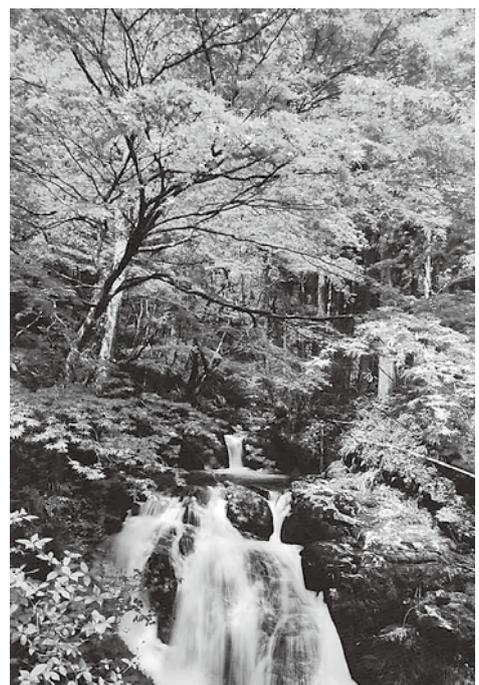
古殿町

阿武隈川サミットオブザーバー

未来へつなげる、うつくしい水

古殿町では総面積の約8割を占める森林の環境整備を積極的に進めており、この豊かな森林を保護することにより水資源を自然のままに守る取り組みをしています。主な取り組みとして、山林の間伐等助成や各地区の農・林業集落排水処理施設の整備、その他一般家庭への合併処理浄化槽の推進、さらには地域による河川清掃の実施など住民の環境に対する意識の向上を目的とした事業を行っています。これら住民が身近な自然環境を保全することで町全体として自然資源の維持活動に寄与しています。

いにしえより先人たちが受け継いできた、きれいな川、きれいな水を守り続けていくために、今後も我が町では限りある美しい自然環境を大切に保護し、未来へつなげていきます。



塩沢の不動滝

きれいな水にして譲ります あなたの町へ

●取り組みの現状

わが平田村は、阿武隈川上流に位置しており、緑豊かな村です。蓬田岳・芝山から流れでた清流は、北須川、平田川を経て阿武隈川へと流れ行きます。

平田村では、「下流域の皆さんに綺麗な水を」と合併浄化槽の設置及び集落排水事業により河川の浄化を図っています。

●未来へのメッセージ

ふるさとの川でもある、この母なる川阿武隈川が流域に暮らす人々に豊かな恵みをもたらし、私たちの生活と心に深く結びついていることをしっかりと受けとめ、この環境を次世代に共通の遺産として残していくためにも、私たちの手で今後も引き続きこの川を守っていきましょう。



山鶏滝

豊かな自然を愛し未来へ残します。

本村は、分水嶺をなす鳳坂峠を境に区分され、東部は降雪が少ない太平洋性気候で、阿武隈川支流の河川沿いに耕地が多く、西部は、降雪が最大2mにもなる、日本海側気候で、那須連山の急峻な地形は、多くが山林原野となっています。

村内を流れる河川は、東部地域では釈迦堂川、竜田川、第二竜田川、後藤川、西部地域は鶴沼川と赤石川が一級河川として主流をなし村の豊かな自然を支えています。

天栄村では、この豊かな自然環境を守り、次世代につながる持続可能な地域づくりを図ってまいります。



新緑の羽鳥湖

田 村 市

阿武隈川サミットオブザーパー

美しい自然と調和し、川と共存するまちづくりを目指します。



大滝根川湖畔の桜並木

市街地を貫流する大滝根川は、春には兩岸の桜並木が満開の花を咲かせ、多くの市民を魅了しています。夏には、市の一大イベントとして「灯籠流し」が行われ、市内外より多くの観光客が訪れる等、四季折々の美しい姿を見せてくれます。

しかし、共に生きてきた大滝根川も、豪雨時には氾濫を起こし、住民の生活さえも脅かしてしまうことがあります。

衛生的で環境負荷の少ない排水処理対策に努め、台風や洪水などの自然災害を未然に防ぐため、防災体制を整備することが必要です。

市の将来像である「あぶくまの人・郷・夢を育むまち～はつらつ高原都市 田村市～」の実現に向け、官民一体となって「美しい自然と調和し、川と共存するまちづくり」を目指します。

三 春 町

阿武隈川サミットオブザーパー

さくら湖（大滝根川）での取り組み

三春町の南部を流れる大滝根川は、阿武隈川の右支川で、国土交通省直轄三春ダムがあります。多目的ダムである三春ダムは、生活用水、農業用水を供給する水瓶としてだけでなく、ダム下流域での洪水が予想される時は、三春ダムからの放流水を調整するなどして、下流域の防災に大きな役割を果たしています。

三春町では、ダム湖（さくら湖）近くにある天然記念物「三春滝桜」を中心に春は「さくらの公園」でお花見、夏は「向山森林公園」で森林浴、秋は「もみじ山」の散策と年間を通じさくら湖周辺の自然を満喫できるように公園整備を行うとともに、さくら湖マラソン、みずウォークなどを開催しています。平成21年度ダム湖利用実態調査によると全国第4位約45万人の方々に観光やレクリエーションの場としてさくら湖周辺にお出でいただいています。

また、里山の環境と知恵をつなげて日本一美しいさくらの里を築くことを目的に、流域関係団体の協力を得ながら「さくら湖自然環境フォーラム」や「さくら湖流域協働ネットワーク」によるクリーンアップ作戦などを開催し、さくら湖や大滝根川流域の環境保全や流域住民の交流も積極的に行っています。



さくらの公園と春田大橋

魚や鳥が安心して住める川づくり

当町を流れる、阿武隈川支流広瀬川は町の中心部を南北に流れる河川です。先の福島原発事故以来、河川愛護活動も専ら減り、河川環境も悪化の一途を辿っていました。しかし、ある日ふと水辺に目をやると、愛らしいカモの親子の姿がありました。快適な水環境は、鳥や魚の生活拠点であると共に、人の心に潤いと安らぎを与えてくれる場として大切な役割を担っています。こうした水及び水環境の重要性を認識し、広瀬川の水環境を将来にわたって良好に保全し、次の世代に引き継ぐため、魚や鳥が安心して住める川づくりを推進します。



広瀬川で遊ぶ親子のカモ

だれもがだいすきな水守の郷づくりを目指します。

七ヶ宿町は、仙台市を中心とする7市10町183万人に、飲料水を供給する水がめ七ヶ宿ダムを抱える水源の町です。七ヶ宿ダムは、阿武隈川水系白石川に阿武隈川総合開発の一環として、平成3年10月に完成した国土交通省直轄の[中央コア型ロックフィルダム]です。

白石川は流路延長60.2km、流域面積813.6km²という阿武隈川最大の支流で、年降水量の平均は、約1,400mmです。七ヶ宿ダムの完成により洪水の調節、流水の正常な機能の維持、かんがい用水・水道用水など、多目的ダムとして幅広い役割を担っております。

水田は第2のダムと言われ、多面的な機能を担っておりますが、七ヶ宿町の水田では源流米と呼ばれるブランド米栽培が盛んに行われて、カキ殻を用いて土壌改良と、用水路に置炭をして水質浄化を行う「環境保全型」の米づくりが行われております。

また、利水市町の水道事業所や市民グループが、七ヶ宿ダム周辺の清掃活動を行うなど、上流と下流が協働で水源地の水質保全活動を行っております。



七ヶ宿湖大噴水

白 石 市

阿武隈川サミットオブザーパー

水文化の継承

白石市は、雄大な自然景観を有する蔵王連峰を擁し、白石川、斎川をはじめとした清流と自然に恵まれ、伝統的な緑と水の文化を育んできました。藩政時代には白石城と市街地を網の目のように水路が整備され、水を活用した白石温麺、白石和紙などの伝統産業が生まれました。

歴史ある水の文化と緑の自然を後世に引き継ぐため、白石市環境基本条例、水道水源保護条例の制定、また、条例に基づき策定した環境基本計画において「水の音とみどりの回廊のまち しろいし」を将来像に掲げ、水と森林の保全に取り組んでいます。

●未来へのメッセージ

我々は、清流がもたらす豊かな恵みを楽しむ権利を有する一方、郷土の環境を守り次の世代に引き継ぐ責務も同時に有しています。阿武隈川サミット20周年の節目にあたり、先人が築いた水文化の継承に向けて尽力するとともに、福島・宮城の美しい風景が続くことを切に願います。



白石川上流（材木岩公園）

大 河 原 町

阿武隈川サミットオブザーパー

清流白石川の景観を未来に残すために



蔵王を望む一目千本桜と白石川

大河原町は秀峰蔵王山系を望み、四季折々の景色が堪能できる自然を楽しめる町です。

また、自然豊かな蔵王を源流とし、町の東西を横断する清流白石川は一目千本桜をはじめとし、花火や渡り鳥など四季の様々な変化を楽しませてくれます。

大河原町ではこのような誇るべき自然環境を後世に引き継いでいくために、町内一斉清掃をはじめ、白石川河川敷の清掃や雑草の刈取りなど環境保全事業を定期的に行っております。

水環境の悪化は油流出や生活排水の不適正処理など、人が原因となる真起こるケースもあります。未来にこれらの素晴らしい景観を残していくためにも、町が一丸となって水質保全に取り組んでいけるよう努めてまいります。

水に想いを寄せて

川崎町の町章は、「太郎川」「北川」「前川」の町を流れる川を三本の線に見立ててデザインされています。

昔から水のあるところに人が集まり、集落が形成されると言いますが、川崎町が栄えてきた理由も豊富な水資源にあったことは言うまでもありません。

また、蔵王連峰から流れる豊富な水は釜房ダムにそそぎ、その先にある仙台平野へと続き、川崎町、仙台市の水瓶として「水源郷川崎」の役割は重要であり、水質保全是私たちの責務でもあります。

東日本大震災では、水道、電気、ガス全てのライフラインがストップしましたが、住民の生命を守るために最初に行ったことが給水活動でした。

震災後、「水・森・人 in 釜房」という水とのふれあいをテーマにイベントを実施し、地元NPO法人は「小水力発電」を試みました。これも豊富な水源がある「水源郷川崎」ならではの取り組みであると自負するものです。

我々人類が生存するために水は欠かせないものです。豊富な水源を有する川崎町であるからこそ、水への恩恵と感謝を忘れず、これからも水の在り方を常に考えてゆこうと思います。清らかな水を大切に、人と森をはぐくむ町づくりを目指していきます。



小水力発電視察の様子

森に学ぼう～自然体験学習による環境教育の推進～

●取り組みの現状

民間企業や団体、地元小学校の協力を得ながら、植林体験や山野草観察などを通して、水を生み出す豊かな森や自然を守り育てることの大切さを地域の子どもたちが学ぶ機会を提供するとともに、森林の保全とそれに伴う水資源の保全を図っています。

地元山麓で開催されるこの事業は、参加者の多くから好評を得ており、都市部からの多くの参加者とともに、楽しみながら環境保全活動を体験することで、子どもたちの「気付き」を呼び覚まします。

●未来へのメッセージ

地球は「水の惑星」と呼ばれており、私たち人間を含め、すべての生き物は水と空気がなくては生きていきません。その水や空気をきれいにしてくれているのが、実は森の力だったのです。森は、全ての生き物にとってかけがえのないものであり、私たちの生活とも大きな関わりを持っています。

森の大切さを楽しく学び、ともに「水の惑星」地球を守っていきましょう。



親子自然体験学習「うるおいの森づくり」～蔵王町青麻山～

村 田 町

阿武隈川サミットオブザーバー

荒川河川環境保全の取り組みについて

本町の中心部を流れる阿武隈川支流白石川支流荒川は、別名「松尾川」とも呼ばれその自然豊かな水辺は古くから町民のやすらぎの場であり、また、生活用水、農業用水等多くの役割を担ってきました。

近年、河川流域の市街化が水質汚濁の大きな原因のひとつでありましたが、公共下水道や合併浄化槽の普及促進を図り水環境の保全に努めることによって、自然豊かな水辺空間に戻りつつあります。

また、毎年、町民総ぐるみで河川敷の雑草刈払いを実施し、河川環境美化に取り組んでいます。



荒川河川刈払

名 取 市

阿武隈川サミットオブザーバー

未来へと続く悠久の流れ

本市は、阿武隈川最下流の河口流域の影響を受けるまちとして、その雄大な流れは、地域の象徴として、自然の偉大さと長い歴史を物語っており、常に強い関心を抱いているものであります。

阿武隈川がもたらす恩恵は、「いにしえからの生活文化のよりどころ」となり、末端流域の我がまちひとりひとりの心の中にも行き渡っております。

しかしながら、阿武隈川がもたらすものは恩恵ばかりではなく、一度洪水で氾濫すると手の施しようのない川となり、濁流と化した流れは人々の生活に多大な影響を与えてきました。

これまでの歴史の中で人々は川に立ち向かい、たゆまぬ努力を注いできた結果が今の阿武隈川を形作っているものと思います。

本市は、阿武隈川と同じ一級河川である名取川の河口部に位置しており、清掃活動等を通して河川愛護の精神を育み、未来へ向けて受け継いでいきたいと思ひます。



名取川・関上大橋付近 清掃活動の様子